

トピック：

「UNRWA は消防士を装う放火犯である。

UNRWA の歴史と発展に関する第一人者であり、『帰還の戦争』の共著者でもあるエイナット・ウィルフ博士が、西側諸国による UNRWA への資金提供が、ユダヤ人国家の正統性を否定し、解体しようとする持続的なイデオロギーをいかに維持し、煽ってさえきたかを明らかにする。」

エイナット・ウィルフ博士の略歴



エイナット・ウィルフ博士は、イスラエル、シオニズム、外交政策、教育に関する第一人者である。2010 年から 2013 年までイスラエル国会の議員を務め、教育委員会の委員長、および大きい影響力を持つ外交・防衛委員会の委員を歴任した。

イスラエルで生まれ育ったウィルフ博士は、イスラエル国防軍の情報将校、シモン・ペレスの副首長在任時の外交顧問、マッキンゼー・アンド・カンパニーの戦略コンサルタントなどを務めた。

ハーバード大学で学士号を、フランスの INSEAD で MBA を、ケンブリッジ大学で政治学の博士号を取得。ジョージタウン大学ではゴールドマン客員教授も務めた。

ウィルフ博士はイスラエル社会の重要な問題を探る 7 冊の著書を著している。

2022 年に出版された『We Should All Be Zionists（私たちは皆シオニストであるべき）』は、イスラエル、シオニズム、平和への道に関する過去 4 年間のエッセイをまとめている。共著『The War of Return（帰還の戦争）—パレスチナの夢に耽溺する欧米が平和への道を妨げる』は 2020 年に出版された。

